

THE RECORD

2005.11 No.552

- **2005年上半期世界音楽売上**
デジタル音楽売上が大幅に伸張
- **アジアの豊かな音楽文化のために**
第2回TAMでパネルディスカッション開催
- **情報モラル教育の現場から**
研究授業&普及フォーラムレポート



社団法人 日本レコード協会

RIA

Recording Industry Association of Japan

2005年上半期 世界音楽売上

今回の特集では、IFPI（国際レコード産業連盟）が10月に発表した2005年上半期（1～6月）の世界音楽売上をレポートします。今期は、デジタル音楽売上がめざましい伸びを見せたこともあり、全売上は1%台の減少にとどまりました。

Contents

Special Feature	
2005年上半期世界音楽売上	1
アジアの豊かな音楽文化のために 第2回TAMでパネルディスカッション開催	4
情報モラル教育の現場から ～ネットワーク社会の光と影について～	5
Topics & Information	8
RIAJ Essay: 「My Music」	10
レコードよもやまばなし	11
Monthly Production Report	12
今月の数字:	
2005年上半期の世界各国の音楽売上	13
Gold Album+...認定	14

表紙の楽器

バンドネオン

アコーディオンと同じく蛇腹で空気を流し込みリードを響かせて音を出す。鍵盤はボタン型で、蛇腹を挟んだ両側についており、蛇腹を押すときと引くときで別の音が出る構造になっている。ボタンは音階と関係なく不規則に並び、演奏技術は非常に難しい。19世紀初頭、ヨーロッパでアコーディオンの原型が完成した後、1840年頃これをもとにハインリッヒ・バンドが開発した楽器は、開発者の名前をとってバンドネオンと名付けられた。現在は主にタンゴの演奏に用いられ、近年日本ではアストル・ピアソラの楽曲で注目を集めた。

売上・市場状況

2005年上半期の世界音楽売上は、金額で132億米ドルとなり、前年同期の134億米ドルと比較して1.9%減少しました。インターネットや携帯電話の音楽需要が飛躍的に伸び、パッケージの減少分をほぼ相殺するに至りました。

IFPIでは、音楽売上の全体を把握し、年ごとに比較するために、デジタル音楽の販売総額を推計しました。それによると上半期のデジタル音楽売上は、約7億9,000万米ドルとなり、前年同期の2億2,000万米ドルから著しく増加しています。これは全売上の6%に相当します。

今期のデジタル音楽売上を、小売マージンを除いた卸価格ベースで見ると、4億4,400万米ドルとなります。この数値には、着メロ売上を除いた、1曲ダウンロード型や定額制、着うたを含む携帯電話の音楽ダウンロード・サービスの売上が含まれています。

デジタル音楽が急成長した背景として、ブロードバンドの普及拡大、第3世代携帯電話やポータブル・デジタル・プレーヤーの普及に加え、ここ1年、各国で多数の新規サービスが成功したことなどが挙げられます。デジタル音楽売上は、今や世界のCDシングル売上金額を凌駕しています。

この数値から、今期、音楽配信や携帯電話向け音楽の売上が世界の音楽市場に対し、初めて大きな影響をもたらしたことが読み取れます。デジタル音楽市場の拡大は、今のところ世界の5大市場（アメリカ、日本、イギリス、ドイツ、フランス）に限られていますが、近い将来には他の市場にも急速に浸透し、各市場の収益拡大に貢献するものと見込まれます。日本のダウンロード売上は1億3,340万米ドルで、世界の売上7億9,000万米ドルの約17%にあたります。日本以外の主要マーケットのシングル・ダウンロード数は以下の通りです。

欧米主要マーケット シングル・ダウンロード総数

	ダウンロード数	前年同期比	備考
アメリカ	1億5,900万	約10倍	ニールセン・サウンドスキャン調べ
イギリス	1,000万	約10倍	OCC/BPI調べ
ドイツ	850万	約8.5倍	IFPIドイツ調べ
フランス	400万	約4倍	SNEP調べ

IFPIのジョン・ケネディ会長兼CEOは次のように語っています。「デジタル音楽ブームは続いており、音楽産業、インターネット小売業者、消費者の興味を駆り立てるような早さで拡大しています。また、多くの国々でインターネットや携帯電話による合法的な音楽ダウンロード・サービスを利用する人たちが増え続けています。このほか、2005年の明るいニュースとして、インターネットでの海賊行為撲滅のために私たちが取り組んでいる啓発活動や訴訟の効果が出ていることが挙げられます。KaZaaのような違法なファイル交換サービスに対する一連の判決が抑止力となり、合法サービスへの転換が促進されるなど、法的な環境も改善されてきました。しかしながら、デジタル、パッケージのいずれにおいても海賊行為は音楽産業にとって大きな脅威であり、まだ数多くの課題があります。当面は、ネット上での海賊対策を強化し、新興の音楽配信ビジネスをさらに発展させていくことが重要な課題となります」

今期のパッケージ売上は、金額で124億米ドルとなり、前年同期比で6.3%減少しました。数量は、前年同期比6.6%の減少となりました。この減少には、以下のような複数の要因が考えられます。

- ・ CD収益の減少は低価格化が最大の要因。CD売上が金額で6.7%減少したのに対し、数量の減少は3.4%にとどまっている。一方、フランス、ロシア、インド、メキシコといったいくつかの市場では、CD売上金額の増加も見られた。
- ・ 音楽DVDの売上は、金額で3.1%減、数量で1.6%減とわずかに減少した。ヨーロッパ(イギリスを除く)、アジアでは減少したが、ラテンアメリカの一部、イギリス(18.3%増)、アメリカ(3.7%増)、フランス(3.9%増)では好調に推移した。世界の音楽DVD売上が、音楽売上金額全体に占める割合は7.2%で、前年同期とほぼ同水準となった。
- ・ 違法ダウンロードと違法CDコピーによる損害が続いている。
- ・ そのほか、発売スケジュールの問題、海賊版ビジネス、他のエンタテインメント分野との競合といった要因がある。

地域別の状況

北米

■アメリカ

アメリカではパッケージ売上が金額で5.3%、数量で5.7%とそれぞれ減少しましたが、急成長にしたデジタル音楽売上がこれを相殺しました。シングルのダウンロードだけでも、前年同期と比較して3倍増の1億5,900万件にのぼっています(ニールセン・サウンドスキャン社調べ)。違法ダウンロード、CDコピーなどの海賊行為は、アメリカ市場に大きな打撃を与えており、会員制サービス分野の減少も続いています。前年同期の売上が好調だったこともあり、今期の減少が際立つという結果になりました。

■カナダ

カナダのパッケージ売上は、マイケル・バブル、50セント、コールドプレイ、イル・ディーヴォなどの売れ筋リリースに牽引されて、数量はわずかに増加したものの、小売店での値引きにより、金額は4.6%減少しました。

トップ10マーケット

	売上総額 (百万USドル)	数量 (増加率)	金額 (増加率)
アメリカ	4,783.2	-5.7%	-5.3%
日本	2,258.2	-6.9%	-9.2%
イギリス	1,248.5	-1.7%	-4.0%
ドイツ	887.7	-7.7%	-5.8%
フランス	861.1	7.5%	-2.7%
イタリア	278.0	-8.4%	-12.3%
カナダ	262.9	0.7%	-4.6%
オーストラリア	259.6	-22.9%	-11.8%
スペイン	231.6	-13.4%	-15.7%
オランダ	190.3	-31.3%	-19.8%

ヨーロッパ

ヨーロッパの売上状況は国ごとにさまざまな様相を呈しています。イギリス、ドイツ、フランスの3大市場は、堅調な国内レパートリー、デジタル音楽売上の急伸によって下支えされました。その他のヨーロッパ諸国は、依然として違法ダウンロード、CDコピーの打撃を受けており、オランダ、ノルウェー、スウェーデンでは、大型リリースが少なかったことも売上減少を招く要因となりました。

■イギリス

イギリスでは、パッケージ売上が、金額で4%、数量で1.7%減少しました。対照的に、デジタル音楽売上は爆発的に増加し、シングルのダウンロードだけで前年同期と比較して10倍増の1,000万件となっています(OCC/BPI調べ)。また音楽DVDの売上金額は、小売単価の値下げにも関わらず全体では増加しました。

■ドイツ

ドイツでは、デジタル音楽売上がパッケージ売上の減少分を補うかたちとなりました。前年同期のシングルのダウンロードがわずかに100万件であったのに対し、今期は850万件に増加しています(IFPIドイツ支部調べ)。一方レコード・クラブなど低価格帯商品が減少したことから、パッケージ売上は、数量で7.7%減少しています。

■フランス

主要市場のうち、フランスはパッケージ売上金額の減少率が最も小さく、2.7%減となりました。数量は7.5%増加しています。CDアルバム売上は好調で、数量で9.5%増加しましたが、低価格化の影響を受けて金額では1.2%の微増となりました。低価格化は音楽DVD市場にも影響を及ぼし、数量で22%増加したものの、金額では3.9%増にとどまりました。デジタル音楽売上は堅調に推移し、シングルのダウンロードは400万件と、前年同期の4倍増となりました(SNEP調べ)。

■ロシア

ロシアは、カセットからCDへの移行、国内レパートリーの売上増加により、金額で21.2%増加するなど、音楽市場として成長を続けています。1995年には市場全体の売上のうち、わずか35%を占めるに過ぎなかったCDのシェアは、現在85%まで上がりました。また国内レパートリーの売上は、2003年で同市場全体の65%でしたが、今期には75%に達しました。また、インディーズ・レーベルの売上が市場の80%以上を占めており、そのなかには、一部の地域で人気を得ているローカル・アーティストを専門にマネジメントするレーベルもあります。

アジア・太平洋地域

今上半期、アジア・太平洋地域の音楽市場は大幅な減少を強いられました。

■日本

日本のパッケージ売上は、金額で9.2%、数量で6.9%の減少となりました。CDの売上数量はほぼ横ばいでしたが、低価格化により売上金額は10.1%減少しました。日本における今期のデ

ジタル音楽売上(パソコンと携帯端末への配信)は、金額で1億3,340万米ドルとなりました(RIAJ調べ)。このうち、携帯端末への配信が96%という圧倒的なシェアを占めていますが、双方ともに順調に成長しています。

■オーストラリア

オーストラリアのパッケージ売上は、CDの売上が金額で9.8%減など、依然として減少が続いています。音楽DVDの売上は、金額で16%減と初めて減少に転じ、以前の急増はDVDプレーヤーの急速な普及拡大よることが明らかになりました。同国のデジタル音楽市場は、現在のところ夜明け前の状況にあります。いくつかの合法サービスがスタートし、本年下期にiTunesサービスが開始される見込みです。

■インド

インド市場では、引き続きカセットからCDへの移行が進み、CDの売上数量は15%増加しました。しかしカセット減少分を吸収するまでには至らず、全体の売上金額は2.4%減少しました。

ラテンアメリカ

ラテンアメリカのパッケージ売上は、2004年の局地的な景気回復を反映した結果になりました。

■メキシコ

メキシコは今期で最も急速な成長を見せ、金額で21.5%増加しました。継続的な海賊版対策、低価格キャンペーンの拡大、ヒット作のリリースなどが、この増加の原因です。ラテン音楽は、アメリカでも好調な売上を上げています。アメリカでのラテン音楽売上は今期に17%増加しました。

■ブラジル

一方でブラジルは、中・低価格帯商品の売上が低下したことで、返品を増加を反映して、16.5%の減少となりました。これまで同国の売上回復を牽引してきたDVD音楽の売上金額は、今期初めて6.3%減少しました。

注・売上上位20カ国のパッケージ売上は、世界売上全体の金額で90%、数量で80%を占めている。上半期の売上金額は、通常、年間売上金額の40%程度に相当する。

- ・売上報告はIFPI会員からの報告に、非会員会社の推計数字を加えたもの。
- ・デジタルの販売額は、メジャー4社からの報告にインディーズ系会社の売上推計を加えて算出している。
- ・音楽配信の売上にはオンデマンドのダウンロード、ストリーム配信および定額制サービスが含まれる。携帯端末向け音楽売上は、オリジナル音源を利用したコンテンツ(着うた、待ちうた、着うたフル)のダウンロード料金(着メロは除外)。

アジアの豊かな音楽文化のために

—第2回東京アジア・ミュージックマーケットでパネルディスカッションを開催—

本年10月19～21日、財団法人音楽産業・文化振興財団(PROMIC)は、「アジアの音楽関係者が東京に一堂に会し、アジア音楽産業の発展及び相互の連携を支援する」イベントとして、第2回東京アジア・ミュージックマーケット(TAM)を、東京・代官山で開催しました。

TAMの一環として、当協会・アジア音楽市場拡大委員会は「アジア各国との音楽文化交流・最新市場動向」をテーマに、アジアで活躍する音楽関係者によるパネルディスカッションを主催しました。内外の音楽関係者多数の出席を得て、アジア諸国の音楽事情について認識を深めていただきました。

■モデレーター:

関谷元子氏 「ポップ・アジア」編集長・音楽評論家

■パネラー:

Jim矢島(矢島志敏)氏 Avex Asia Limited 社長

シン・ソンヒ氏 SONY BMG MUSIC ENTERTAINMENT KOREA INC. 次長

チーク氏 SENIOR VICE PRESIDENT, MTV JAPAN

チャン・ヤートン氏 北京東樂影音文化有限公司 ゼネラルプロデューサー



当協会、アジア音楽市場拡大委員会主催のパネルディスカッションが行われたのはTAMの中日、10月20日。会場となった東京・代官山UNICEは、開始時間の15時15分になると、詰め掛けた音楽関係者で満席の状態でした。主催者側のアジア音楽市場拡大委員会、榎本委員長の挨拶に続いて、モデレーターを務める関谷氏の「アジアの音楽交流を楽しみましょう」という一声から、パネルディスカッションがスタートしました。

アジア音楽市場のキーパーソンとして、それぞれ韓国、中国、香港・台湾、シンガポールをベースに活躍する4名のパネラーより、各国・地域を代表するアーティストのPVを視聴しながら各国・地域市場の音楽の特徴や、プロモーション活動の実態などが紹介されました。次いで、日本で活躍するアジア・アーティストのPV、アジアでよく知られている日本人アーティストのPVも紹介されました。そして、各国・地域における日本の楽曲の受け入れられ方、著作権の取り扱われ方、市場の見通しと日本音楽の可能性などが議論されました。

さまざまなレコード会社に勤務し、J-POPにも詳しい韓国のシン氏は、流暢な日本語で、PVに力を入れる韓国音楽産業の特徴を解説しました。若手ながら中国ナンバーワンといわれる音楽プロデューサー、チャン氏は、自作のPVとともに、中国トップ・アーティストたちの個性について、繊細な表現で解説しました。日頃情報の得にくい中国での音楽の作られ方、アーティストの活動、音楽市場の広がりなど興味深い話題にも触れていました。唯一、日本人のパネラーとして参加したJim矢島氏は、韓国事業に携わった後、香港を拠点に香港・台湾・中国における音楽ビジネスに取り組んでいます。豊富な経験をもとに、中国語圏における音楽市場の交流状況などを詳細にレポートし、ビジネスの進め方の違いなどを解説しました。また映画監督としても有名なシンガポールのチーク氏は、東南アジア各地域の珍しいPVを紹介し、同地域で日本音楽の需要が大きいことなどに触れていました。

ディスカッション後の質疑応答では、日本の音楽関係者より、各国の音楽プロモーション方法の違いや関連費用の実態など、踏み込んだ質問がなされました。最後にパネラーの方々から、非常に興味深い議論ができたとの感想が述べられ、盛会のうちに終了しました。参加者からは、「個性的で実力のあるパネラーの話により、アジア地域の音楽市場の様子が細かく理解できる有意義なイベントだった」との感想も聞かれました。

情報モラル教育の現場から

～ネットワーク社会の光と影について～

情報ネットワークの急速な発展の陰で、著作権侵害を含めたネットワーク犯罪が社会的な問題となっています。こうした事件に、子どもたちが巻き込まれるケースもあり、対応の急がれる深刻な問題となってきました。音楽コンテンツの違法なアップロードで摘発された者のなかには、未成年者も含まれています。このような状況のなか、学校教育において、児童・生徒の段階からきちんとした情報モラルを教えていく実践教育が本格化しています。当協会では、著作権啓発活動の一環として、現場を預かる先生方

との協力関係を築き、情報モラル教育を通じて子どもたちに著作権の大切さを知ってもらい、さまざまな取り組みを行っています。

この10月には、東京都文京区の青柳小学校(鶴田光俊校長)で行われた情報モラル教育の研究授業に、当協会のスタッフも参加しました。その模様を紹介するとともに、授業を担当された原先生から、情報モラル教育の目的や最近の子どもたちの状況について語っていただきました。

■ 文京区 情報モラル教育研究授業レポート



青柳小学校の5年生22名が受ける社会科の情報モラルの学習も、今日が最終回です。これまで5回にわたって、生活のなかに情報がどう入ってきているのか、情報を受け手としてどう見たらいいのか、産業界で情報がどう使われているのか、情報社会の発展がもたらした光と影とは何だろうか、といったことを考えてきました。最終回は、著作権を学ぶことを通じて、情報社会でよりよく暮らしていくために、どのようなことが大切なのかを考えます。

5時間目の教室には、昼下がりの暖かい光が差し込んでいます。後ろには、研修授業を見学に来た他校の先生方もいて、子どもたちはやや落ち着かない様子です。教壇に立った原先生の元気な声で授業がスタートすると、子どもたちも集中モードに入りました。

最初に、CDがどのように作られているのかをまとめた当協会のビデオをみんなで鑑賞しました。当協会スタッフからどのような感想を持ちましたか?という質問が出されると、何人かが勢いよく手をあげて、自分の意見を述べて

くれました。「CD作りにはたくさんの人が関わっていて、大変なんだとわかった」「CDには、スタッフの努力がしみこんでいるから、ぜひ聴いてほしいという言葉が印象に残った」といった感想が出て、それをきっかけに原先生は、音楽産業界が直面している違法コピーの問題、著作権の考え方へと子どもたちの関心を導いていきました。そして、子どもたちの興味が高まってくる様子を見届けて、どうしたら違法なコピーを防ぐことができるのか、みんなで解決策を話し合いましょうと促しました。

机を移動して、班ごとに分かれて話し合いが始まると、次々に思いついた意見を出す子もいれば、一つひとつ言葉を選びながら、考えをまとめていく子もいます。原先生と当協会スタッフは各班を廻り、子どもたちが考えをまとめやすいように、ときには会話も交わしていきます。見学の先生方も前へ出て、子どもたちの様子をうかがい、出される意見に耳を傾けています。





話し合いが終わり、意見がまとまると、各班の代表者が前へ出て発表しました。「問題をたくさんの人に知ってもらえるように、ポスターでアピールし、ネットで注意する」「コピーされないようなCDやMDを作る」「違法なものを見つけたらすぐに削除する。そういう技術を開発する」「ホームページで違法に音楽をばら撒いたら罰金10万円

を取る」「違法なサイトにアクセスできないようにする」「CDが売れるように、限定オリジナルグッズをプレゼントする」…短い時間でも、よく考えられた意見が出てきました。原先生がそれぞれの意見の良さを褒め、雰囲気盛り上げる一方で、当協会スタッフは音楽産業で行っている対応策を紹介していきます。自分の意見と同じ対応策が実践されていることを知り、満足そうにお互いに目配せする子もいました。また、当協会の著作権啓発パンフレットを配布し、「みなさんの好きな歌手が素晴らしい歌をいつまでも気持ちよく歌い続けられるように、著作権のルールを守ってくださいね」と訴えました。最後に、感想をまとめて授業は終わりです。原先生の元気な授業で、子どもたちもネットワーク社会で自分たちがどう振舞うべきなのか、考えを深めたようです。

■ 未成熟、未発達な子どもたちを導くために

東京都文京区立青柳小学校 主幹
原 香織先生

コンピューターのソフトウェア開発に携わった後、教師に転身。2005年4月より青柳小学校に勤務。前職での経験を活かし、早くから情報教育の実践に取り組む。一昨年より当協会スタッフとのチーム・ティーチングを毎年実施。



今、子どもたちの置かれている状況を見ていますと、情報モラル教育がとても大切だと実感します。今の子どもたちは、生まれてきたときから情報ネットワーク社会に育っています。未成熟、未発達な子どもたちは、身近に便利な情報ツールがあると歯止めなく手を出してしまいます。たとえば、違法なサイトからのダウンロードでも「無料でできる、面白い!」と知らずにやってしまう危険があるのです。教師もよく勉強し、指導する仕組みを整えて、こういった環境の変化に対応した教育、指導を考えていかなければならないと考えています。

実際の指導では、まずコンピューターに表示される画像、情報は人々の苦勞の結晶だと伝えることが大切ですが、今の子どもは、はじめから便利な時代に生まれていて、コンピューターの便利さについてピンとこない。そこで、自分の身に置き換えることを重視してアプローチ

しています。現場にいますと、今の子どもたちが自己中心的な傾向があると感じますので、自分がされたら嫌なことをしない、という働きかけはとても重要です。また、子どもは、からだで感じる存在ですから、頭ごなしの机上の空論ではついてこれません。今日の授業のように、映像を使って目で見て考えることが非常に効果的だと思います。

今の情報環境は、便利さを追求する一方で、モラルやルールが後追いになっているように思われます。情報ネットワーク社会のオープンで公平な良さを活かし、子どもたちが気持ちの良い未来を創っていくためにも、大人がモラル、ルールをしっかり示していくことが重要ではないでしょうか。学校教育の場だけではなく、家庭、地域、社会全体で取り組んでいく課題だと考えています。

充実した情報モラル教育の実践へ向けて

■ 教職員向け情報モラル指導の普及フォーラム開催

財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)*では、文部科学省からの委託事業として、情報モラル教育の効果的な指導方法の研究・普及活動を推進しています。本年は、全国16カ所の教育委員会と共同で、教職員向けの情報モラル指導の普及フォーラムを開催しています。

9月に鳥取県教育委員会と共催したフォーラムでは、東京都北区立赤羽台西小学校(山本力校長)の野間俊彦先生、金城学院大学現代文化学部情報文化学科の長谷川元洋助教授が講師として、それぞれの研究成果を発表されました。また、講師の先生方や現場の教師、保護者の代表とのパネルディスカッションも行われました。

野間先生は「児童・生徒の情報モラルをどう育てるか」、長谷川助教授は「日常の教育実践の中で、学ばせる教育



を」を、それぞれのテーマに講演されました。携帯電話やインターネットが普及したことで便利になった反面、児童・生徒に悪影響(友人間のトラブル、犯罪への関与など)を及ぼす具体例が解説され、情報モラル教育の必要性と、教師、保護者との連携の重要性などが訴えられました。著作権の大切さを知っていただくため、野間先生には、著作権のルールをわかりやすく解説するために当協会が作成したパンフレット「楽しく音楽を聴くために知っておこう。」をご紹介いただきました。また、長谷川助教授への質問は著作権の問題に終始し、現場の先生方の著作権に対する意識の高まりが見て取れました。

一方、パネルディスカッションでは数多くの意見や質問が出され、白熱した意見交換が展開されました。特に、子供たちを守るために学校側と保護者のコミュニケーションをどう図るかについての関心の高さがうかがえました。

講演された野間先生からは、今回特別にご寄稿いただきましたので、以下にご紹介します。

*財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)

1986年設立。わが国の学校におけるコンピュータ利用促進のための基盤的技術を研究開発し、コンピュータ教育に関して普及啓発することを目的とする。文部科学省、経済産業省の共同管轄。

情報モラル教育の充実に向けて

東京都北区立赤羽台西小学校 主幹

野間俊彦先生

1993年から赤羽台西小学校に勤務。2002年からは文化庁「著作権学ぼうプロジェクト」委員などを務める。「楽しく音楽を聴くために知っておこう。」(当協会作成児童用著作権啓発パンフレット)の作成にもご協力いただく。

講演などでいろいろな学校に何うと、必ずと言っていいほど「情報モラル教育は必要だと思うけど、何をどう教えたらいいいのかわからない」とか、「教材がないから教えるに」と言われます。しかし、本校が情報モラル指導を始めた5年前ならともかく、今は指導資料や指導教材はたくさんあるのです。「情報モラル」で検索すれば10万件以上ヒットします。アニメーションを使って子どもの興味をひく教材や、授業実施上のフローチャート(指導案)もあります。有料のものもありますが、ほとんどは無料で利用できます。また、著作権に関しては、日本レコード協会をは

じめ、出張授業や指導教材を提供している団体もいくつかあります。

先生方が「情報モラルの授業をしたい」と考えられるなら、まずインターネットで情報収集から始めることをお勧めしています。先日も他校の先生が本校に視察にいらした時、目の前で検索してお見せしたらそのヒット数の多さにとても驚いていました。

今後、これら教育関連機関や民間団体の教材を活用し、学校での「情報モラル教育」が充実していくことが望まれます。

Topics & Information

sarah助成事業「不正アップロード防止キャンペーン」スタート

今年で5回目を迎える著作権啓発のキャンペーン、「不正アップロード防止キャンペーン(sarah助成事業)」が11月1日から1カ月間の予定でスタートしました。昨年同様、(社)日本音楽著作権協会、(社)日本芸能実演家団体協議会・実演家著作隣接権センター、(社)日本音楽事業者協会、(社)音楽出版社協会、(社)音楽制作者連盟の音楽関係団体と(社)日本インターネットプロバイダー協会と当協会が連名でキャンペーンを展開します。

今年は、新聞、雑誌、インターネット、都営地下鉄全線の広告展開のほか、携帯電話に専用サイトを設置、プレゼントキャンペーンを初めて実施します。携帯サイトにアクセスしたユーザーに、音楽のマナーとルールを伝えると共に、著作権アンケートを実施することで、一層のキャンペーンメッセージの浸透を図っていきます。



携帯サイトQRコード



キャンペーン広告

「Respect Our Music」キャンペーン 感謝状を贈呈

当協会は、昨年12月～今年4月にかけて4組のアーティストを起用した2004年度「Respect Our Music」キャンペーンを展開し、CDリスナーやPCユーザー層を中心に「違法な音楽ファイル交換防止」を訴えました。キャンペーンは大きな反響を呼び、特に若年層の音楽ファンからは「違法ファイル交換がもたらす影響について考えさせられた」などの声が寄せられました。

当協会では以下の日程で、ご協力いただいたアーティストの方々に対して、感謝盾と記念品(キャンペーンポスターと同

じデザインのミュージックギフトカード4枚をアクリル・プレートに納めたもの)を贈呈しました。



コブクロさんへの贈呈

■9月29日

コブクロさん

■10月4日

華原朋美さんに代わり

(株)プロダクション尾木 代表取締役社長 尾木 徹氏

奥田民生さんに代わり

(株)ソニー・ミュージックアーティスツ

執行役員専務シニアプロデューサー 原田公一氏

m-floさんに代わり

(株)アーティマージュ代表取締役社長 浅川真次氏

MPA音楽著作権管理者養成講座に講師を派遣

10月27日、(社)音楽出版社協会(MPA)が主催する音楽著作権管理者養成講座で、当協会の生野秀年専務理事が講演を行いました。

講演では「日本のレコード産業」をテーマに、市場規模、レンタル、音楽配信の概要について説明を行い、さらにレコード産業の課題として、私的複製の問題、違法なファイルの交換、アジアを中心とした海外展開、レコード保護期間延長に向けた法改正における対応策等について言及しました。



講演の様子

第1回「レコードファン感謝祭2005 廃盤CD特別謝恩セール」終了

当協会加盟25社は、10月28日～11月11日までの2週間、インターネットによる廃盤CDセール「レコードファン感謝祭2005～廃盤CD特別謝恩セール～」を開催しました。

今年で14年目を迎えるこの廃盤セールは、年々認知度も

上がり、リピーターの方からもご好評を頂いております。この期間中も大変多くの方々にアクセスいただきました。なお、第2回の概要については以下の通りです。

■開催日程：●第2回

2006年1月27日(金) 15時～2月10日(金) 15時
告知サイトで1月11日(水)から事前の商品閲覧とユーザー登録ができます。商品のご注文は、1月27日(金) 15時から開始します(先着順)。

■URL：http://fair.jmd.ne.jp

■お問い合わせ先：Eメール：fair@jmd.ne.jp

「CD用マスターDDPファイル互換性ガイドライン」を発行

当協会情報・技術委員会(廣瀬禎彦委員長)は、「CD用マスターDDPファイル互換性ガイドライン」を10月7日付で発行しました。

DDP(Disc Description Protocol)は、米国DCA社(Doug Carson & Associates, Inc.)が光ディスク・プレス業界向けの規格として開発し、オープン・ライセンスとして提供されています。しかし、オープン・ライセンスのため、規格運用上の拘束力が弱く、規格の定義の解釈等の違いにより、DAW(Digital Audio Workstation)メーカーやソフトウェアメーカーごとに異なったDDPファイルが作成される場合があり、互換性上の問題が指摘されていました。

こうした問題への対処として、このガイドラインは、CD用製造マスターのDDPファイルに関して、DDP規格の設定項目で互換性を保つために、より詳細に定める必要のある事項について規定したものです。なお、このガイドラインにより、レコード会社とCD工場間でのマスター交換時に互換性が保たれ、CD製造時の効率化が期待されます。

コンテンツ海外流通促進機構(CODA)と中国著作権関係者の会合開催

10月27日、コンテンツ海外流通促進機構(CODA)と中国著作権関係者(著作権局、国务院法制弁公室、江蘇省著作権局)との会合が、CODA事務局である日本貿易振興機構(JETRO)で行われました。

CODAは、著作権関係団体やコンテンツ産業等が積極的に海外に事業展開を図るとともに、海外における海賊版対策を講じていくために設立された民間組織であり、当協会はCODAの活動を企画・実施していく企画委員会の一員として

日本音楽著作権協会などと共に参画しています。

会合では、第一部として双方の活動内容が紹介され、CODA側からは事業概要およびCJマーク事業の説明が行われました。続いて第二部として、会合に出席したCODA会員団体の紹介が行われ、当協会も事業の概要について説明を行いました。意見交換では、CODAから、中国著作権局がパブリックコメントの募集を行っている「情報ネットワーク伝播権保護条例(草案)」に対して意見を提出する予定であることを伝えました。また、毎年開催される日中著作権協議の時期に合わせて、この会合を定例開催とし協力関係を強化したい旨の申し出を行い、中国側からは申し出を持ち帰り関係部門に伝えるとの回答を得ました。

まなびピア鳥取2005開催 不正商品対策協議会も出展

10月9日～15日の7日間、鳥取県民体育館(鳥取県鳥取市)において、第17回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア鳥取2005」が開催されました。このフェスティバルは、生涯学習に係る活動の場を紹介することにより、広く国民一人ひとりの生涯学習活動への意欲を高め、一層の振興を図ることを目的として、毎年全国規模で開催されています。

このフェスティバルには、当協会も会員となっている不正商品対策協議会が、第1回目の開催から継続して展示ブースを設けています。今回の展示では「だめだめ!不正商品(ニセモノ)には気をつけて!～不正商品は、買わない!持たない!許さない!～」と題し、不正商品と真正品を展示して不正商品に対する知識と知的財産権の大切さをアピールしました。

近年、知的財産権への関心が高まる中、当協議会展示ブースに立ち寄った学生をはじめとする多くの人々に知的財産権に対する理解を深めてもらいました。なお、このイベントの来場者は延べ11万人に達しました(鳥取市人口は約20万人)。



フェスティバルの様子

第2回東京アジア・ミュージック・マーケット開催

10月19日～21日の3日間にかけて、(財)音楽産業・文化振興財団(PROMIC)主催による「第2回東京アジア・ミュージック・マーケット」(TAM)が、東京・代官山で開催されました。

19日に開かれたオープニング・パーティーは200名以上の参加者で賑わい、盛況となりました。20日、21日に行われたカンファレンスは、中国の最新音楽状況や韓国音楽の海外戦略、アジアでのコンテンツ配信ビジネス最新事情など、それぞれ最新的话题に富んだテーマだったことから多くの音楽関係者が会場に詰めかけ、好評を得ました。また、3日間を通して開催されたライブでは、各国から来日した粒ぞろいのバンドが連日熱いパフォーマンスを繰り広げました。

第2回の開催を盛況裏に終え、PROMICは来年の開催に向けての準備に取り掛かりました。

ポップアジア2005開催

10月、ポップスを通じてアジア各国の多彩な文化交流の促進を目指す「ポップアジア2005」(文化庁舞台芸術国際フェスティバル実行委員会主催)が、大阪(15日)、東京(18日)、福岡(24日)で開催されました。

東京国際フォーラムで行われた東京公演では、香港の人気俳優である余文樂(シヨーン・ユウ)、韓国の人気グループであるノウルとgod、日本からはglobeが熱唱し、会場を盛り上げました。また、韓国や香港からのファンも多く見られ、会場は熱気に包まれました。

● 2005年10月会議メモ

- 10・5 マーケティング委員会
- 10・7 情報・技術委員会
- 10・11 レコード倫理審査会
法制委員会
- 10・14 広報委員会
二次使用料委員会
- 10・18 アジア音楽市場拡大委員会
- 10・20 日本ゴールドディスク大賞委員会
- 10・21 執行委員会
- 10・28 理事会

RTA Essay

■ My Music

ジェネオンエンタテインメント株式会社 取締役 管理本部長 米倉建一

私の音楽となると、聞く状況によりアーティスト・楽曲は様々。ただ、その音楽性・生き方・時代背景に共鳴・共感。強い印象は、今エンタの世界ですが元ハードメーカー。当時よく持てた高級コンポを駆使、BASFテープで深夜何度も愛聴したのは60年代JAZZでした。芸術クラシックに対し、多人種・多様性により19世紀にニューオリンズで発生、スイング・モダン・フュージョンと発展したこのジャズに魅かれました。また、数多くの楽しいジャズ・名プレイヤーを輩出したあのブルーノート。その後NYにも訪れ、最終ステージ青白い光の深夜1:00まで幾度も並び、観客・プレイヤー一体となった管楽器・ドラム・ピアノの熱気ライブが今でも耳を離れません。数多くの名だたるアーティスト・名演あり、一つの選曲は困難です。壮厳・絶妙の面で2点とさせて下さい。

一つは今日のジャズの礎、天才サクソ奏者、ジョン・コルトレーン(1926~67、40才没)。マイルス参加後60年独立、ブルーノートに残る『ブルートレーン』があるが、最高傑作は四者の織りなす壮大な宗教観を持つ組曲『A Love Supreme』。コルトレーンに感謝。

もう一点は、オスカー・ピータソン(1925~)、ピアノトリオ『THE BEST OF OSCAR PETERSON』。『THE DAYS OF WINE AND ROSES』等リラックスしてスタンダードを聞く。繊細なピアノタッチが生き物の様で、重厚プレイに対極し一層光る。

さあ、もっと聞く機会を増やそう。初冬の夜に壮厳なジャズ。またBGM的に軽く絶妙なジャズ。そしてiPodで多くから聞くか。家でチョイスしてAudioで聞くか。

LPという夢の実現

このコーナーでは、当協会に残る古い資料などをもとに、様々な逸話をご紹介します。

今では、すっかり懐かしいものの一つに数えられるようになったLPレコード。それは、世界の音楽ファンの長年の夢を実現した、画期的な製品だった。

蠟管蓄音器の演奏時間はおよそ2分。そして最初の平円盤型レコードが世に出た19世紀末からほぼ半世紀の間、一般に普及したSPレコードでも、演奏時間はおよそ5分を越えないままであった。世界の音楽ファン、特にクラシックのファンは、レコードを何枚も入れ替えなければ1曲を通して聴くことができないことに、相当なストレスを感じていただろう。レコードが本格的に普及して以来、「長時間レコード」は切望されていたに違いない。

実際に、「長時間レコード」の開発史をひもといて見ると、すでに1904年には英国のミカエルスという人がネオフォン社を興し、ボール紙とセルロイドの「長時間レコード」を製作している。その後、1920年代に入って英国や日本で、「長時間レコード」が製作され、かのエジソンも、1926年にSPレコードの速度で12インチ、両面約40分間演奏できるレコードを発表している。1931年には米国RCAビクターが、片面14分間ほどのレコードを発表。1938年、日本では、大阪の小西正三、坪田耕一が、長さ10mのエンドレスフィルムを使って、フィルムと名づけられた36分演奏できる独自の蓄音器システムを完成・製品化している。

多くの先人たちが挑戦した「長時間レコード」は、いずれも日の当たるところまで至らず、

普及することはなかった。シェラックなど従来からの素材の限界により、音質上のさまざまな問題を解決することができなかったからである。

1948年。この年はLPレコードが実用化された年としてレコード史に刻まれている。6月18日の蒸し暑い午後、ニューヨークのウォルドルフ・アストリア・ホテルで、CBSコロムビアはLPレコード実用化のプレス発表を行った。開発者であるCBS研究所のピーター・ゴールドマークは、招待したメディア関係者、音楽評論家およそ100名を前に、LPレコードの完成を告げた。音質を確保するためにビニール素材を利用し、33・1/3回転で演奏時間は片面約23分、SPの5～6面分に相当するものであった。社長のエドワード・ウォーラー・シュタインは、同じ325曲の入ったSPとLPを積み上げて比較してみた。SPが2.4m、天井に届くほどだったのに対し、LPはわずか37cm。そのインパクトは大きかった。これ以降、レコード産業全体は、徐々に新たな市場拡大の時代へ入っていく。

ビニール素材の開発や録音技術の発達など、第二次大戦後の民生技術の発展が、LPの実用化成功の背景になっているが、単にそれだけではない。ピーター・ゴールドマーク自身、クラシック音楽ファンの一人で、「ぶつ切り」の問題を解決したいと強く望んでいた。LPレコードは、多くの音楽ファンの夢をよく知る、いち音楽ファンである開発者の熱意が結実したものである。

参考文献：

- 「蓄音器とレコードの歴史」 著：池田圭・(社)日本蓄音器レコード協会(現RIAJ)
「社団法人日本レコード協会五十年史～ある文化産業の歩いた道」 (社)日本レコード協会
「エジソンからデジタルオーディオまで オーディオの一世紀」 著：山川正光・誠文堂新光社
「レコードの文化史」 著：クルト・リース 訳：佐藤牧夫・音楽之友社

Monthly Production Report

2005年9月度レコード生産実績

9月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)生産実績は、3カ月ぶりに前年同期を上回り、数量で前年同月比136%の3,964万枚・巻、金額で前年同月比126%の456億円と大きく伸長しました。このうち、オーディオレコードは、CDがシングル・アルバムとも好調で、数量で前年同月比133%の3,496万枚・巻、金額では前年同月比130%の417億円となりました。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			9月実績						2005年(1月~9月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
シ	8cmCD	邦	333	1	33%	30	0	31%	1,514	1	13%	221	0	20%
		洋	11	0	138%	1	0	106%	173	0	12%	18	0	13%
		計	344	1	34%	31	0	32%	1,688	1	13%	239	0	20%
ン	12cmCD	邦	5,656	16	126%	4,545	11	128%	47,701	21	99%	37,128	14	101%
		洋	78	0	229%	53	0	201%	517	0	98%	375	0	88%
		計	5,734	16	127%	4,598	11	129%	48,218	22	99%	37,503	14	101%
ル	小計	邦	5,989	17	109%	4,575	11	126%	49,215	22	82%	37,350	14	98%
		洋	89	0	212%	54	0	197%	690	0	34%	393	0	69%
		計	6,078	17	110%	4,629	11	126%	49,906	22	80%	37,742	14	98%
12cmCD アルバム	邦	18,411	53	149%	26,743	64	155%	107,945	49	106%	149,829	57	101%	
	洋	9,798	28	125%	9,625	23	92%	58,414	26	107%	69,166	26	91%	
	計	28,209	81	140%	36,368	87	131%	166,358	75	106%	218,995	83	98%	
CD 合計	邦	24,400	70	137%	31,318	75	150%	157,160	71	97%	187,179	71	101%	
	洋	9,887	28	126%	9,680	23	92%	59,104	27	104%	69,559	27	91%	
	計	34,287	98	133%	40,997	98	131%	216,264	97	99%	256,737	98	98%	
アナログ ディスク	邦	13	0	116%	11	0	46%	151	0	26%	181	0	77%	
	洋	2	0	29%	3	0	46%	48	0	21%	79	0	47%	
	計	15	0	87%	14	0	46%	199	0	25%	260	0	64%	
カセット テープ	邦	631	2	104%	591	1	107%	5,532	2	79%	4,674	2	83%	
	洋	1	0	150%	1	0	108%	19	0	150%	16	0	161%	
	計	632	2	104%	592	1	107%	5,551	2	79%	4,690	2	83%	
その他	邦	6	0	33%	13	0	67%	188	0	104%	267	0	130%	
	洋	18	0	105%	37	0	110%	161	0	79%	317	0	81%	
	計	24	0	67%	50	0	94%	350	0	91%	584	0	98%	
合計	邦	25,050	72	136%	31,933	77	149%	163,031	73	96%	192,301	73	100%	
	洋	9,908	28	126%	9,720	23	92%	59,332	27	104%	69,971	27	91%	
	計	34,958	100	133%	41,653	100	130%	222,363	100	98%	262,272	100	97%	

● 音楽ビデオ

			9月実績						2005年(1月~9月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	3,848	82	179%	2,668	68	85%	23,013	84	130%	28,096	80	102%	
	洋	773	17	129%	1,161	30	137%	3,768	14	107%	6,074	17	93%	
	計	4,621	99	168%	3,829	98	96%	26,781	98	127%	34,170	97	100%	
テープ・LDその他		61	1	75%	84	2	52%	644	2	71%	1,016	3	62%	
合計	邦	3,909	83	175%	2,752	70	83%	23,653	86	127%	29,101	83	99%	
	洋	773	17	129%	1,162	30	136%	3,771	14	106%	6,085	17	92%	
	計	4,682	100	166%	3,914	100	94%	27,425	100	124%	35,186	100	98%	

● 音楽ソフト(オーディオ/音楽ビデオ合計)

			9月実績						2005年(1月~9月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		34,958	88	133%	41,653	91	130%	222,363	89	98%	262,272	88	97%	
音楽ビデオ		4,682	12	166%	3,914	9	94%	27,425	11	124%	35,186	12	98%	
合計		39,640	100	136%	45,566	100	126%	249,788	100	100%	297,458	100	97%	

● ビデオ(含音楽ビデオ)

			9月実績						2005年(1月~9月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD		11,564	99	102%	13,379	97	88%	90,762	97	95%	121,162	94	98%	
テープ・LDその他		169	1	29%	425	3	20%	2,463	3	45%	7,197	6	37%	
合計		11,732	100	98%	13,803	100	80%	93,225	100	92%	128,360	100	90%	

● オーディオ/ビデオ合計

			9月実績						2005年(1月~9月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		34,958	75	133%	41,653	75	130%	222,363	70	98%	262,272	67	97%	
ビデオ		11,732	25	98%	13,803	25	80%	93,225	30	92%	128,360	33	90%	
合計		46,691	100	122%	55,456	100	112%	315,589	100	96%	390,632	100	95%	

備考 1. 上記実績は、会員会社「41社」の集計である。当会員会社が受託した非会員会社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

2005年上半期の世界各国の音楽売上

IFPI (国際レコード産業連盟) が10月に発表した世界各国の音楽売上です。今月の特集「2005年上半期世界音楽売上」(1~3頁)とあわせてご覧ください。

●2005年1月~6月

国名	数量(百万枚・巻)			小売金額		成長率	
	シングル	C D	音楽DVD	(百万米ドル)	(現地通貨・百万)	数量	金額(現地通貨)
アメリカ	3.3	300.5	11.6	4,783.2	4,783.2	-5.7%	-5.3%
日本	28.5	93.7	8.5	2,258.2	239,759.0	-6.9%	-9.2%
イギリス	13.3	66.8	2.9	1,248.5	666.7	-1.7%	-4.0%
ドイツ	8.5	58.7	4.4	887.7	689.7	-7.7%	-5.8%
フランス	11.5	47.3	4.5	861.1	669.1	7.5%	-2.7%
イタリア	0.5	14.7	0.7	278.0	216.0	-8.4%	-12.3%
カナダ	0.07	20.8	1.5	262.9	325.0	0.7%	-4.6%
オーストラリア	3.6	14.5	1.5	259.6	335.9	-22.9%	-11.8%
スペイン	1.0	17.5	1.1	231.6	180.0	-13.4%	-15.7%
オランダ	1.2	8.7	1.9	190.3	147.9	-31.3%	-19.8%
メキシコ	0.06	33.4	0.8	187.9	2,082.3	44.0%	21.5%
ロシア	0.03	25.5	0.08	187.9	5,234.7	-9.4%	21.2%
ブラジル	0.008	17.6	2.4	151.7	390.3	-20.4%	-16.5%
オーストリア	0.6	4.5	0.2	120.5	93.6	-1.5%	-9.6%
スイス	0.8	7.1	0.2	115.8	139.2	-	-
ベルギー	1.4	6.7	0.5	115.4	89.7	-13.8%	-8.9%
ノルウェー	0.3	4.5	0.1	103.4	655.6	-19.7%	-10.4%
スウェーデン	0.6	6.6	0.2	98.5	701.1	-29.0%	-20.3%
南アフリカ	0.04	5.8	0.6	92.9	575.9	6.2%	8.1%
インド	-	10.9	-	79.2	3,456.6	-19.2%	-2.4%
デンマーク	0.1	4.0	0.1	73.1	423.5	3.7%	-4.2%
フィンランド	0.2	4.1	0.2	59.1	45.9	1.0%	-3.0%
韓国	0.09	5.0	0.1	59.0	59,862.3	-23.8%	-22.1%
台湾	0.1	5.6	0.5	56.5	1,778.1	-22.2%	-26.4%
タイ	-	5.8	5.8	52.3	2,057.4	-21.6%	-20.5%
ニュージーランド	0.2	2.9	0.2	52.0	72.6	-2.9%	-3.9%
ポルトガル	0.02	3.7	0.3	50.9	39.6	-16.5%	-13.6%
アイルランド	0.4	3.1	0.2	49.2	38.2	4.3%	-8.2%
アルゼンチン	0.006	5.9	0.2	45.2	130.7	16.3%	29.2%
ポーランド	0.01	4.2	0.2	44.8	140.9	4.6%	-7.9%
ギリシャ	0.1	3.2	0.1	44.7	34.7	-1.5%	-11.0%
香港	0.006	2.8	0.6	38.9	303.2	9.3%	4.7%
インドネシア	-	1.8	0.4	33.6	316,167.1	-28.5%	-22.1%
ハンガリー	0.01	1.6	0.06	24.5	4,710.6	16.8%	-3.3%
コロンビア	0.001	2.1	0.08	24.3	56,936.4	-4.0%	5.8%
ウクライナ	0.04	4.0	0.02	22.2	115.2	-21.1%	-14.3%
シンガポール	0.003	2.8	0.1	18.3	30.2	40.1%	-22.7%
チリ	-	1.9	0.2	15.6	9,036.8	30.3%	0.8%
ルーマニア	-	1.8	0.01	15.6	444,191.0	11.8%	10.0%
チェコ	0.02	1.1	0.08	15.5	361.9	-16.0%	-7.8%
マレーシア	-	1.1	0.3	14.2	54.1	-10.0%	-14.1%
フィリピン	0.09	1.8	0.4	11.9	655.1	-8.9%	-10.8%
中央アメリカ	-	0.8	-	8.8	8.8	-46.3%	-30.9%
ベネズエラ	-	0.7	0.03	6.9	14,104.6	-49.8%	8.1%
スロバキア	-	0.5	0.02	4.0	121.4	27.5%	12.1%
ブルガリア	0.0007	0.2	0.04	3.1	4.7	-	-
エクアドル	-	0.3	0.01	2.6	64,271.7	14.0%	18.7%
ウルグアイ	-	0.2	0.01	2.4	60.5	10.6%	4.3%
ペルー	-	0.2	0.01	1.7	5.5	-74.5%	-11.7%
合計	76.7	839.0	54.0	13,365.2	-	-	-

備考 1. IFPI (国際レコード産業連盟) 資料による。
 2. 米ドル換算レートはIMF (国際通貨基金) より算出。
 3. カセットシングル、CDシングルは「シングル」に含む。

資料: IFPI (国際レコード産業連盟)

Gold Album +... 認定

2005年9月度

2005年発売の新譜では、ミリオン1作品、トリプル・プラチナ2作品、ダブル・プラチナ4作品が認定されました。

邦楽

アルバム

● ミリオン			
I♥U	Mr.Children	2005.09.21	TF
● トリプル・プラチナ			
BEST~first things~	倭田来未	2005.09.21	AVT
● ダブル・プラチナ			
グッジョブ!	RIP SLYME	2005.08.31	WJ
● プラチナ			
Río de Emoción	Dragon Ash	2005.09.07	V
GLAMOUROUS SKY	NANA starring MIKA NAKASHIMA	2005.08.31	AI
SONORITE	山下達郎	2005.09.14	WJ
● ゴールド			
DIABOLOS	Gackt	2005.09.21	CR
君とのDistance	ZARD	2005.09.07	BG
Do The A-side	Do As Infinity	2005.09.28	AVT
Tommy heavenly*	Tommy heavenly*	2005.08.24	DF
Listen To The Music	横原敬之	2005.09.28	TO
YAMAZAKI MASAYOSHI the BEST/BLUE PERIOD	山崎まさよし	2005.09.21	UM
YAMAZAKI MASAYOSHI the BEST/THE OUT OF THE BLUE	山崎まさよし	2005.09.21	UM

シングル

● ダブル・プラチナ			
Be My Last	宇多田ヒカル	2005.09.28	TO
キズナ	ORANGE RANGE	2005.08.24	SR
● プラチナ			
好きやねん、大阪。/桜援歌(Oh!ENKA)・無限大	関ジャニ∞	2005.09.14	TE
Pecori Night	Gorie with Jasmine & Joann	2005.09.14	YR
HEAVEN	浜崎あゆみ	2005.09.14	AVT
ENDLESS STORY	REIRA starring YUNA ITO	2005.09.07	SR
● ゴールド			
魔法戦隊マジレンジャー 主題歌	岩崎貴文、Sister MAYO	2005.03.02	C
プラネタリアム	大塚 愛	2005.09.21	AVT
その手で夢をつかみとれ!/みんなひとりで生きてない!	くず	2005.09.14	YR
Two As One	クリスタル・ケイXケミストリー	2005.10.05	ES
機動戦士ガンダムSEED DESTINY 4th ENDING THEME 君は僕に似ている	See-Saw	2005.08.03	V
言いたいことも言えずに	塚地武雅、堤下 敦、梶原雄太	2005.08.31	YR
Sky	BENNIE K	2005.09.21	FL
realize/Take a Chance	melody.	2005.08.17	TF
飲みの種	YUKI	2005.09.07	ES

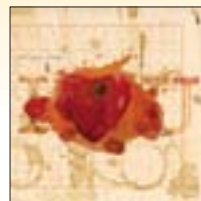
ビデオ

● プラチナ			
KAT-TUN Live 海賊帆	KAT-TUN	2005.05.03	JA
● ゴールド			
secret~FIRST CLASS LIMITED LIVE~	倭田来未	2005.09.21	AVT
What a beautiful moment	ZARD	2005.06.08	ON

洋楽

アルバム

● トリプル・プラチナ			
DISCO-ZONE~恋のマイアヒ~	O-ZONE	2005.03.02	AVT
● ダブル・プラチナ			
ベスト・クラシックス100	VARIOUS	2005.04.13	TO
● プラチナ			
ハヴ・ア・ナイス・デイ	ボン・ジョヴィ	2005.09.14	UM
● ゴールド			
レイト・レジストレーション	カニエ・ウェスト	2005.08.26	UM
ザ・ストーリー・ゴーズ...	クレイグ・デイヴィッド	2005.08.24	WJ
ア・ピガール・パン	THE ROLLING STONES	2005.08.31	TO
ザ・トリニティー	ショーン・ポール	2005.09.28	WJ
ルースター	ルースター	2005.04.20	BMG
[天国の階段]オリジナル・サウンドトラック	VARIOUS ARTISTS	2004.12.01	PC
ブチアゲオトランス #3	VARIOUS	2005.09.23	V
ストリート・ヴァイブス2	VARIOUS ARTISTS	2005.07.21	UM
ダンスホール・ラヴァーズ・アンコール	VARIOUS	2005.08.03	TO
ベストヒット80's	VARIOUS	2005.08.03	WJ



I♥U/Mr.Children



BEST~first things~/倭田来未



DISCO-ZONE~恋のマイアヒ~/O-ZONE



グッジョブ/RIP SLYME



ベスト・クラシックス100/VARIOUS



Be My Last/宇多田ヒカル



キズナ/ORANGE RANGE

左上から右へ、ミリオン、トリプル・プラチナのアルバム、ダブル・プラチナのアルバム/シングルの順。

※ダブル・プラチナ(50万枚)以上の認定を受けた作品のジャケット写真を紹介します。

※AI:ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ/AVT:エイベックス・エンタテインメント/BG:ビーグラムレコーズ/BM:バーミリオンレコード/BMG:BMGファンハウス/C:コロムビアミュージックエンタテインメント/CR:日本クラウン/DF:デフスターレコーズ/DRM:ドリーミュージック/EP:アップフロントワークス(ゼティマレーベル)/ES:EPICレコードジャパン/FL:フォーライフミュージックエンタテイメント/GN:ジェネオン エンタテインメント/GZ:ギザ/JA:ジェイ・ストーム/JE:ジャニーズ・エンタテイメント/JK:ユナイテッド・アジアエンタテインメント/K:キングレコード/KS:キューンレコード/MC:ミュージチャー・コミュニケーションズ/MH:ソニー・ミュージックダイレクト/ON:ビーヴィジョン/PAR:プライエイドレコーズ/PC:ポニーキャニオン/PK:ピッコロタウン/PZ:ピザ・オブ・デス・レコーズ/QQ:バームビーチ/RR:ロードランナー・ジャパン/SE:エスエムイーレコーズ/SI:ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル/SN:SENHA & CO./SR:ソニー・ミュージックレコーズ/SV:アニプレックス/TE:テイチクエンタテインメント/TF:トイズファクトリー/TJC:徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO:東芝EMI/UM:ユニバーサルミュージック/V:ビクターエンタテインメント/WJ:ワーナーミュージック・ジャパン/XL:アンリミテッドグループ/YR:アール・アンド・シー

協会からのお知らせ

Topics & Informationでご紹介しましたが、sarahの助成を受け、関係7団体による著作権キャンペーンを現在展開中です。このカラー広告は、雑誌に掲載される予定です。

見つかります!!
音楽の不正アップロード

音楽の不正アップロードは著作権法に違反する行為として厳しい処罰の対象になります。

エッ!?

音楽の不正アップロード防止キャンペーン [応募期間] 平成17年11月1日～平成17年12月15日

キャンペーン期間中にハッキリとした証拠や情報から特定された方へ、[A賞] 1000円相当のギフト券、[B賞] 500円相当のギフト券、[C賞] 200円相当のギフト券、[D賞] 100円相当のギフト券を抽選でプレゼントいたします。■応募方法 ●インターネットによる応募方法: 1000円相当のギフト券、500円相当のギフト券、200円相当のギフト券、100円相当のギフト券を抽選でプレゼントいたします。■応募方法 ●メールによる応募方法: 1000円相当のギフト券、500円相当のギフト券、200円相当のギフト券、100円相当のギフト券を抽選でプレゼントいたします。■応募方法 ●郵便による応募方法: 1000円相当のギフト券、500円相当のギフト券、200円相当のギフト券、100円相当のギフト券を抽選でプレゼントいたします。■応募方法 ●その他: 1000円相当のギフト券、500円相当のギフト券、200円相当のギフト券、100円相当のギフト券を抽選でプレゼントいたします。

Respect
our MUSIC

THE RECORD No.552 2005年11月号
社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 佐藤 修
編集人 田辺 攻
発行日 2005年11月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL: 03-6406-0510(代) FAX: 03-6406-0520(代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

編集後記

詳細は次号でご紹介しますが、「Respect Our Music」キャンペーンの今年度の本格展開がスタートしました。今回は、夏川りみさん、一青 窈さん、大黒摩季さんという、柔らかく暖かみのある女性3アーティストにご登場いただき、それぞれに音楽に対する想いを語っていただく予定です。現在夏川りみさん編が展開中です。インターネットからも夏川さんのメッセージを発信中です。是非ご覧ください。

(S)